

大島造船所の今後の事業展望について



2025年11月14日

会社紹介

会社名	株式会社 大島造船所
代表者	代表取締役会長 南 宣之 代表取締役社長 山口 眞
事業内容	船舶の建造（中小型バルクキャリアの建造に特化） 橋梁の建設・修繕、農産事業
創業	1973年2月7日（創業52年）
株主	株式会社ダイソー(60.9%)、住友商事株式会社(34.1%)、 住友重機械工業株式会社(5.0%)
資本金	56億円
本社所在地	長崎県西海市大島町1605-1
事業拠点	本社・大島工場（西海市）、香焼工場（長崎市） 東京、大阪、福岡、長崎、佐世保、ハノイ、ロンドン
売上高	2,037億円（2025年3月期）
従業員数	社員1,625名、協力社員1,645名、外国人労働者244名 合計3,514名（2024年9月1日）



載荷重量 6万2千トン
全長200.00m/幅32.26m/深さ18.97m



載荷重量 8万2千トン
全長229.00m/幅32.26m/深さ19.98m

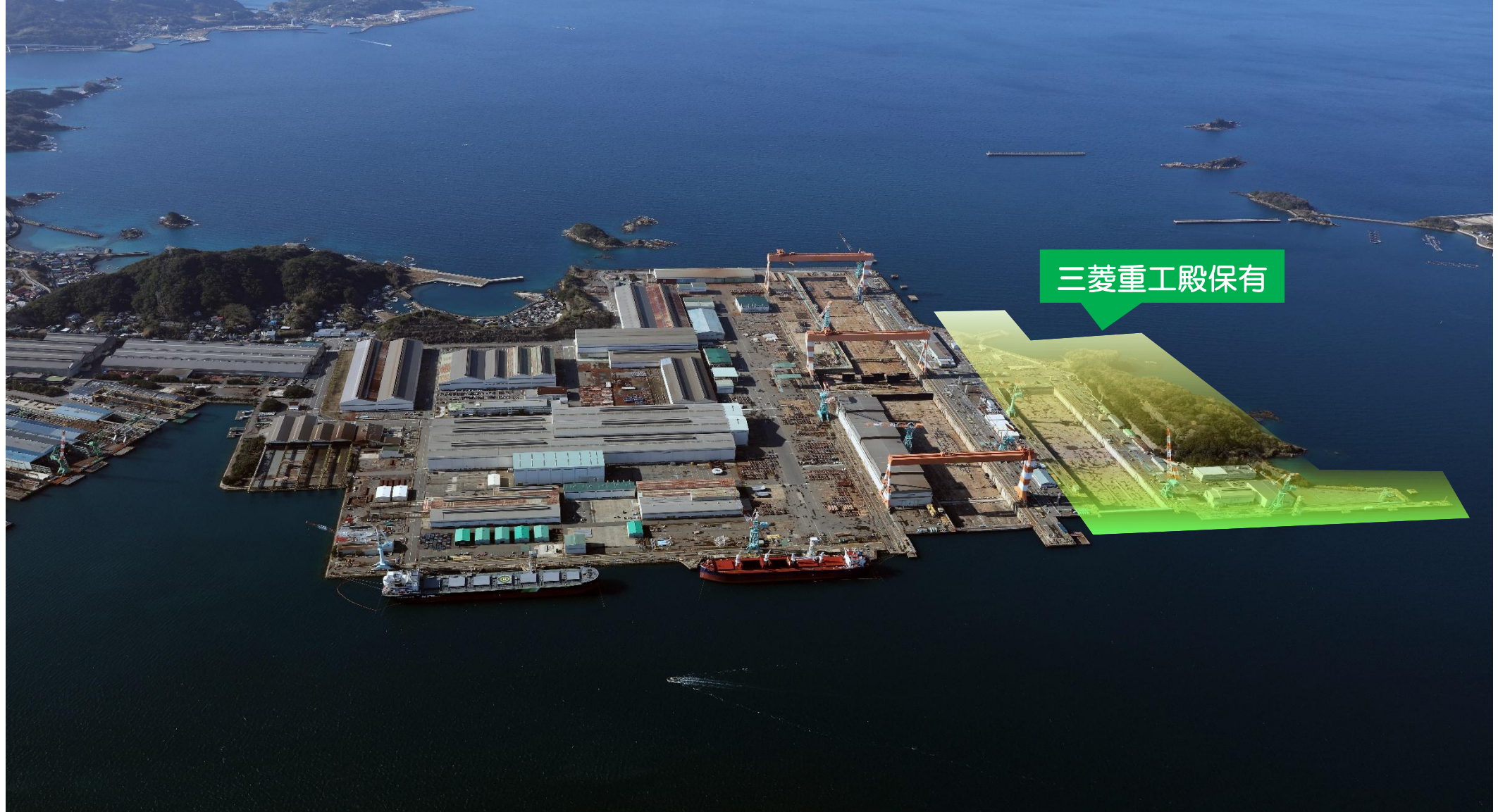
製造拠点



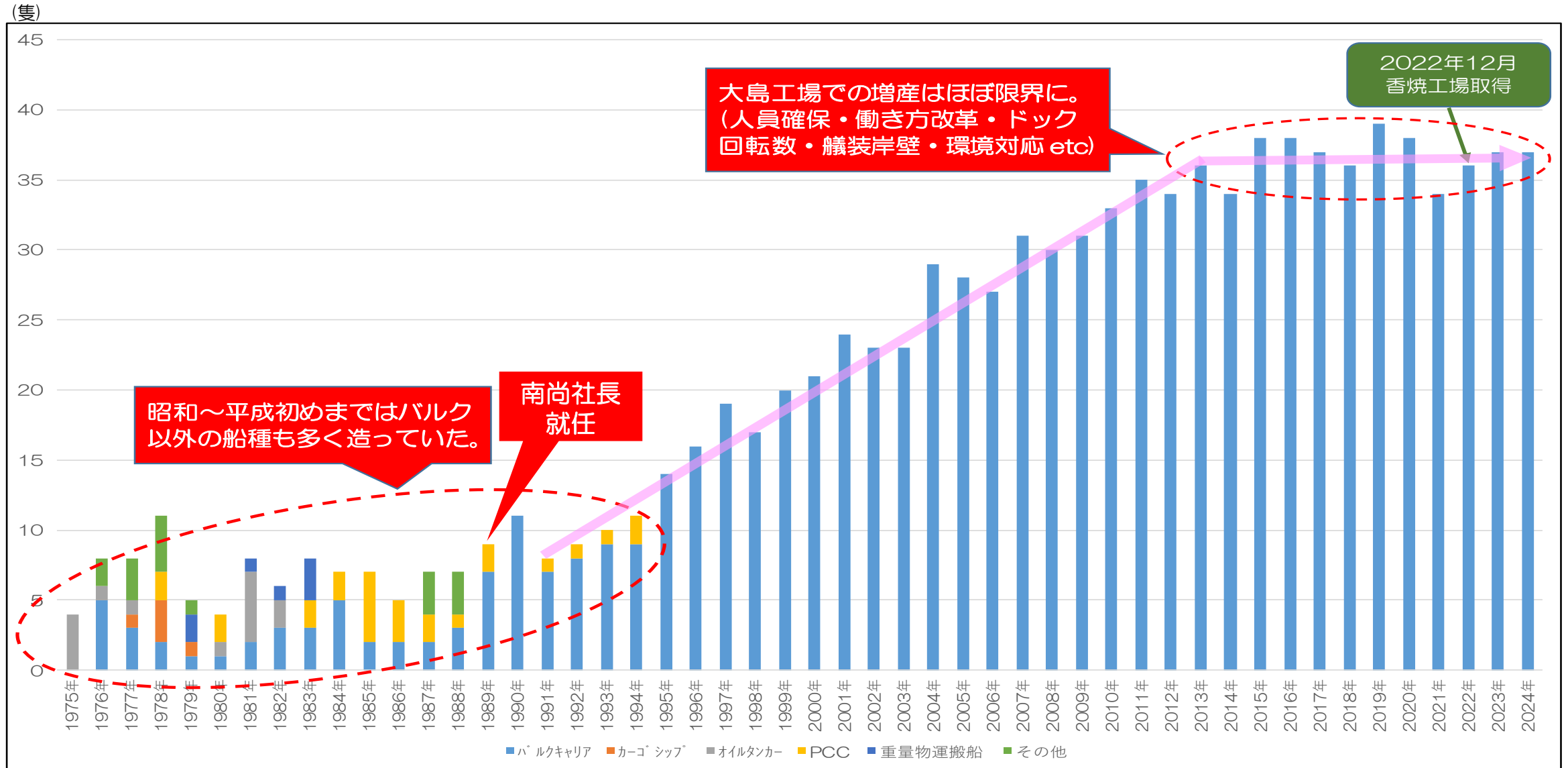
大島工場全景



香焼工場全景



大島造船所の建造船種と隻数の歴史



過去のバルカー以外の建造船



オイルタンカー(14隻)



自動車運搬船(26隻)



プッシャーボート(2隻)



半没水式重量物運搬船(7隻)

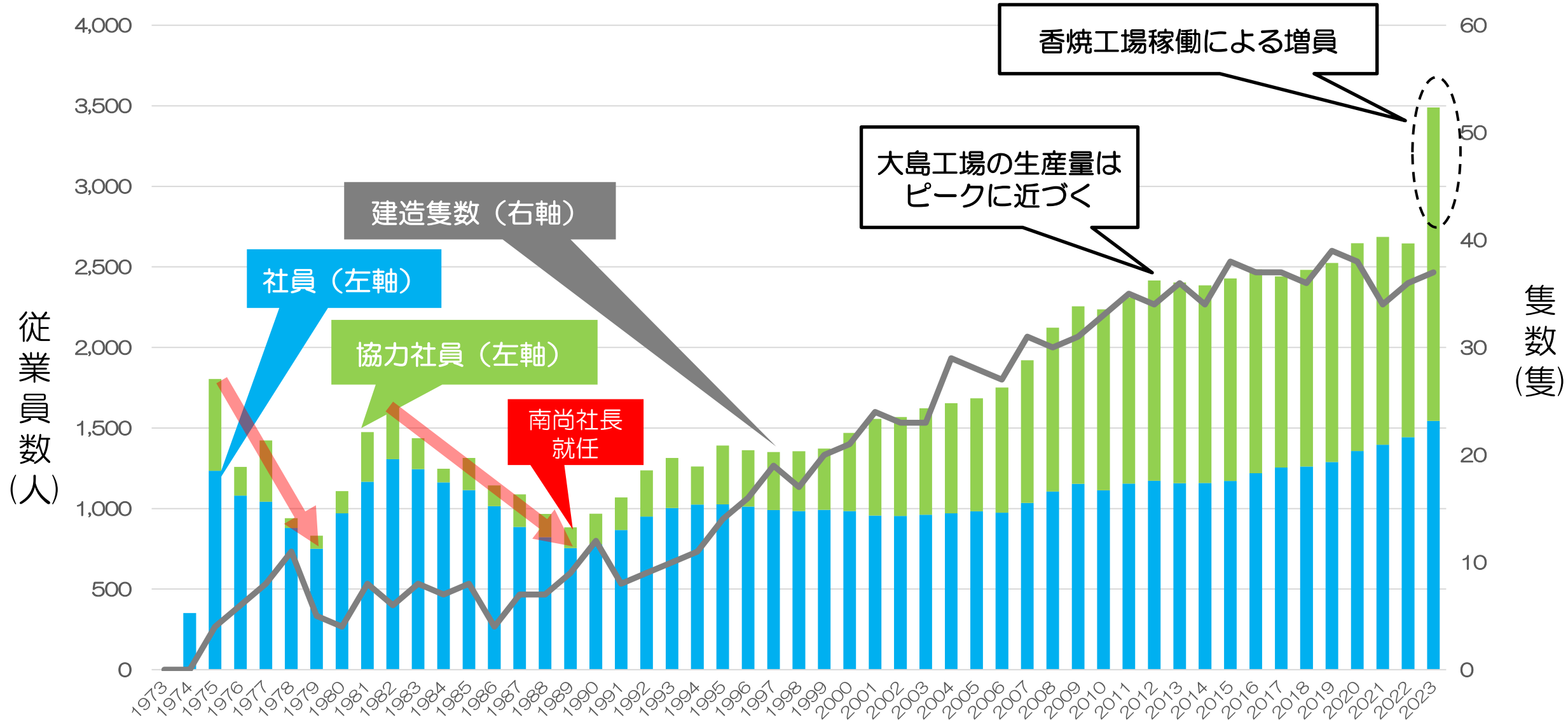


タグボート(6隻)

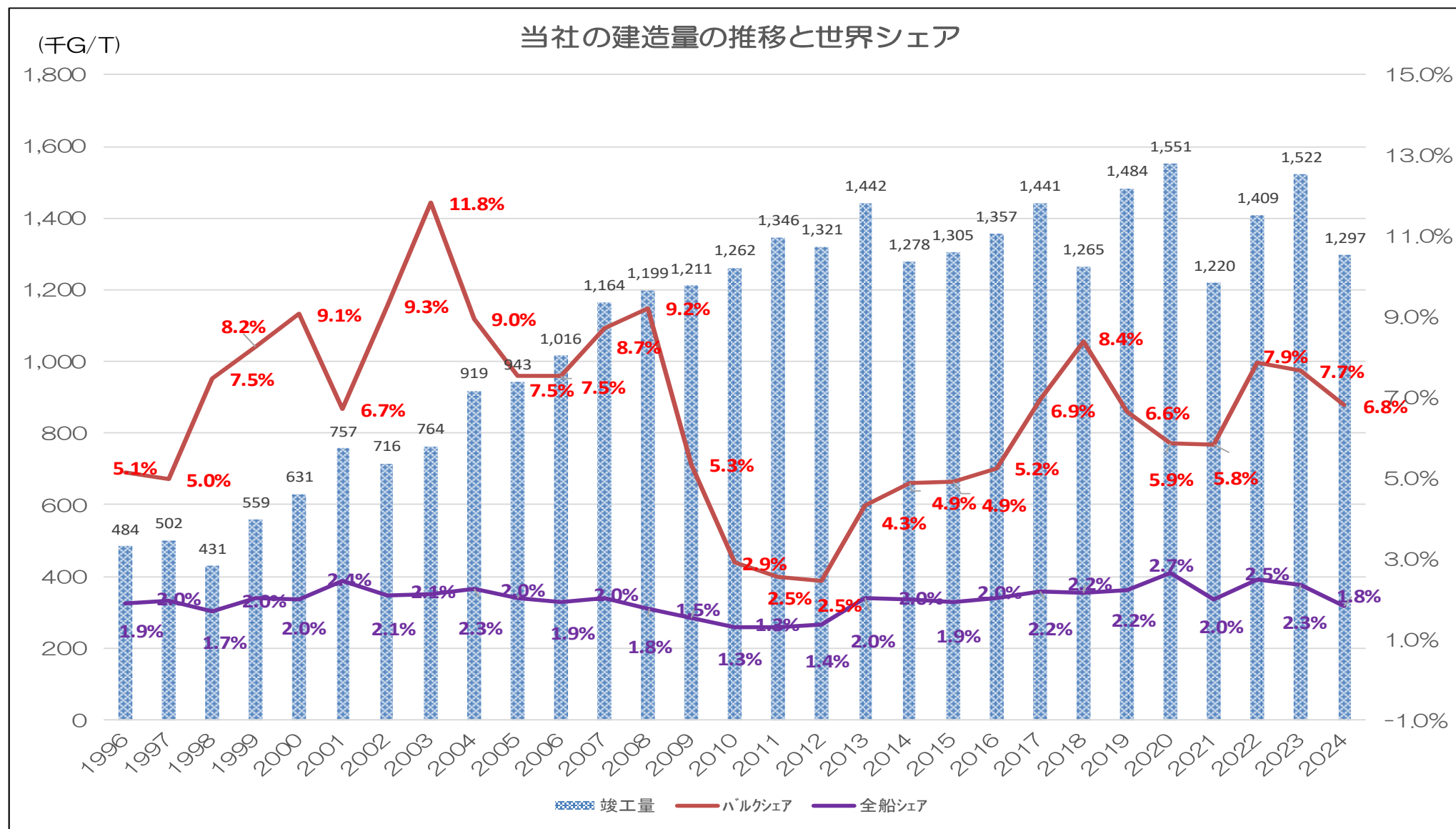


巡視艇(1隻)

人員・建造量の推移



世界シェアの推移(GTベース)



大島・香焼の目指す生産モデル

特性にあった役割分担：「連続建造に適した大島工場」と「新ビジネスを担う香焼工場」

工場	製造	特徴・目指す生産モデル	制約要因
大島	・新造船専用	・従来のバルクの高速連続建造体制を追求	・特定職種の労働力不足 ・岸壁能力により、環境対応船は生産性低下要因に ・50年経過した老朽設備
香焼	・新造船 ・新規ビジネス	・手慣れたバルクの連続建造を基本とする (将来的には二桁隻数への増産も考える) ・岸壁・ドック活用やタンク製造等、環境船対応の制約解除に貢献する ・設備の優位性を活かし、鉄構工事や洋上浮体等の新規ビジネスにより利益の上積みを図る	・大島並の隻数を狙うには大量の人員増と老朽設備更新を含む多額の設備投資が必要で現実的には困難 ・人員増と新規設備投資が必要 ・費用対効果の見極め

香焼工場ドックゲート増設構想

現状

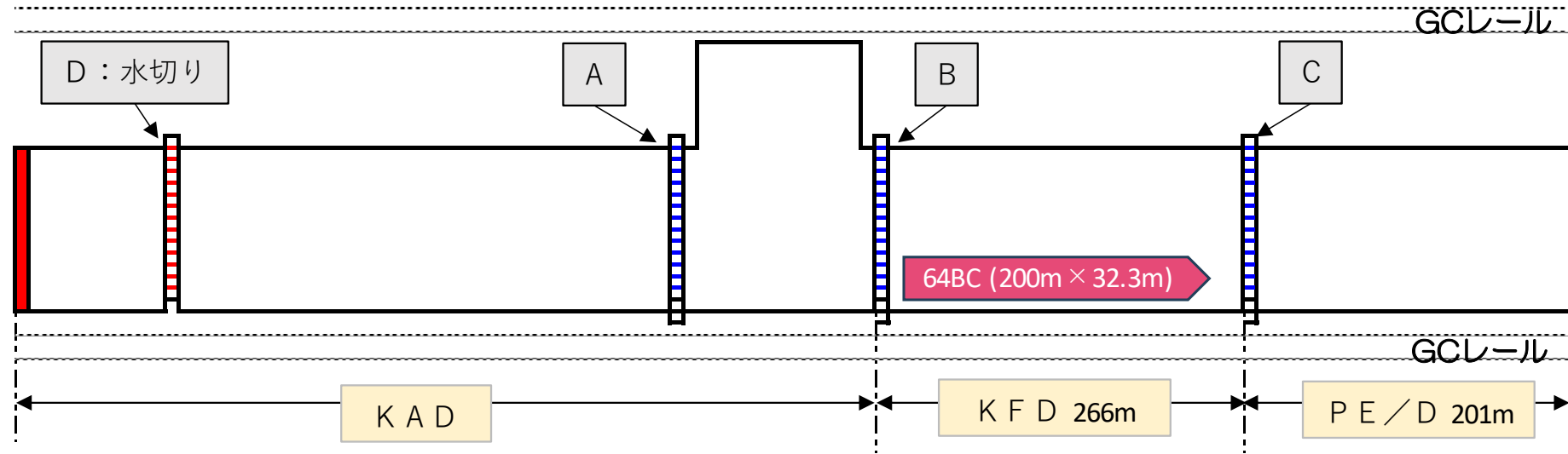


増設後

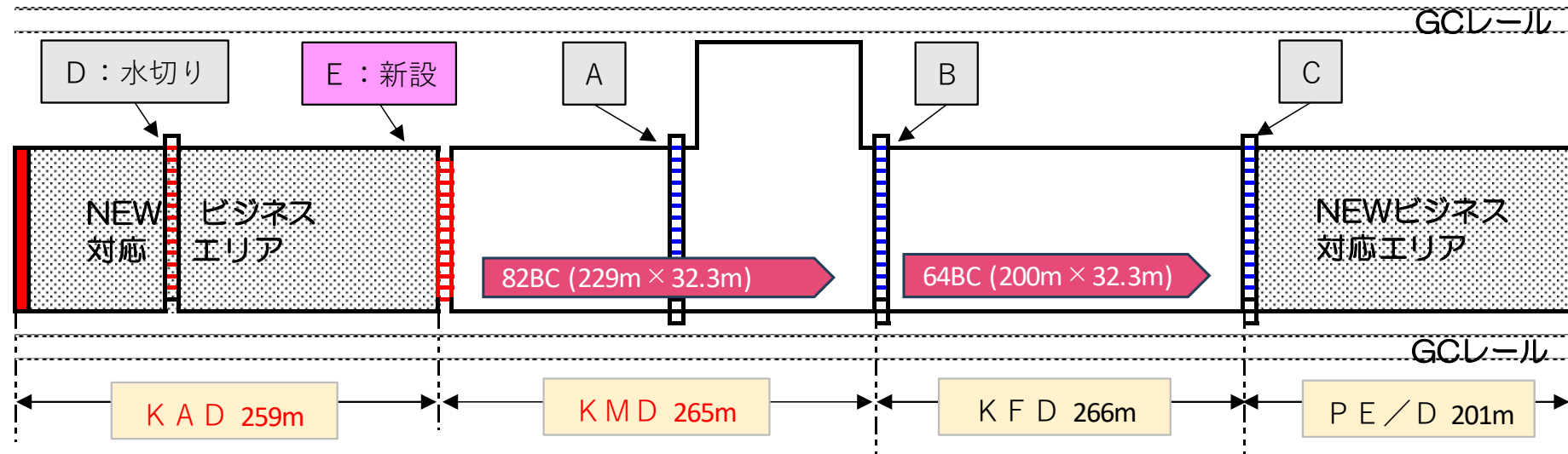


ゲート増設により縦列建造を実現

現状

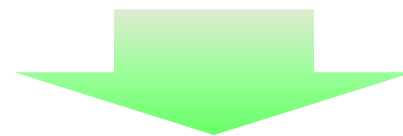


増設後



香焼工場における浮体式洋上風力発電：浮体基礎の製造

洋上風力発電
浮体基礎部分の製造



造船の技術・設備が生きる

香焼工場の大型ドックを
活かした基礎部分の製造
を検討

(幅80m×高さ30mの構造体)



本画像はイメージです
(国土交通省公開資料より引用)

鉄構事業（橋梁）

新設橋梁 (JV事業)

女神大橋（長崎市）



大島大橋（西海市）



出島表門橋（長崎市）



新設橋梁

長崎南環状線3号橋（長崎市）



川棚西部地区3号（川棚町）



相浦川橋（佐世保市）



鉄構事業（水門・海洋構造物）

水門保全

諫早干拓堤防排水門の塗装塗り替え工事



海洋 鋼構造物

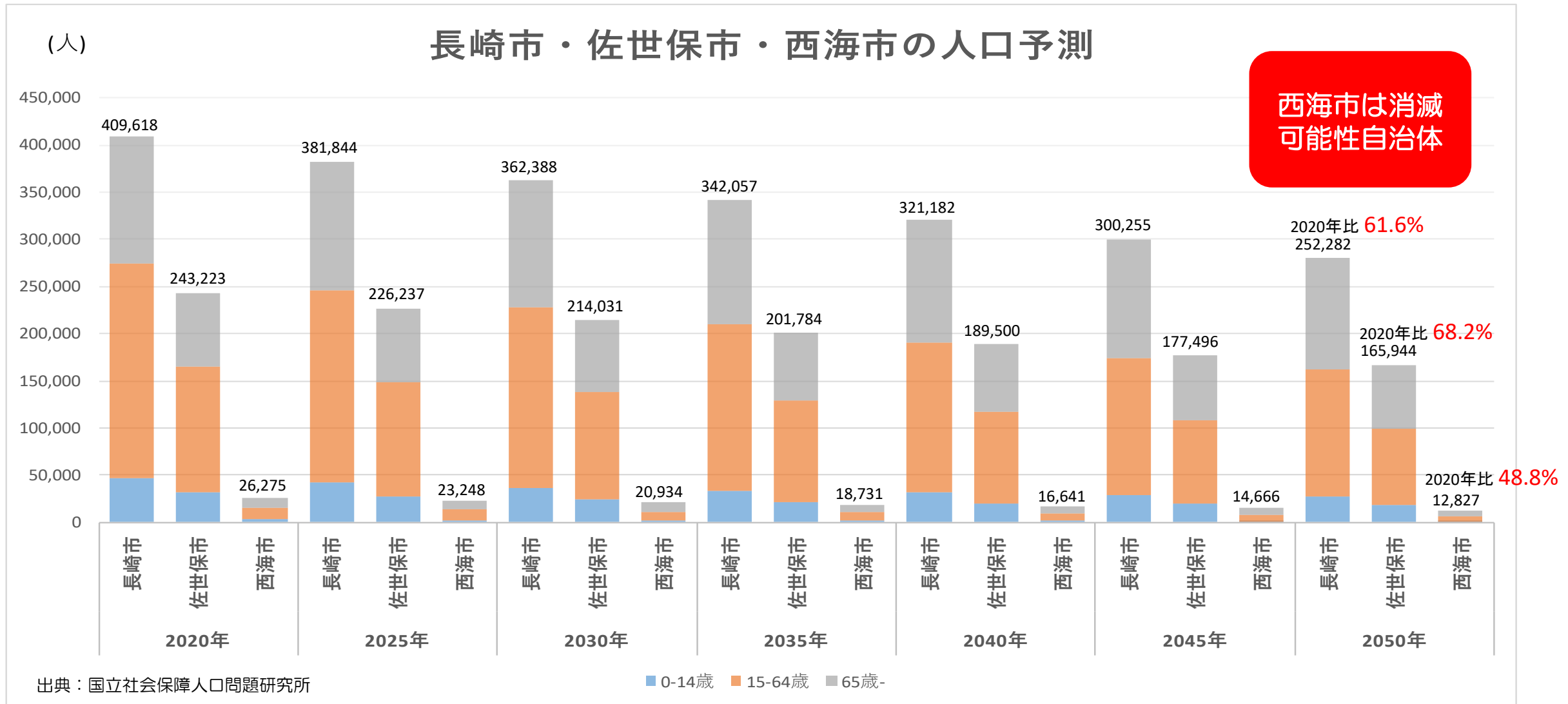
神浦港可動橋（長崎市）



館浦漁港浮棧橋（平戸市）



地域振興は事業継続の大前提



地域振興に向けて ～ 自治体との連携(1)



2024年5月 長崎県と連携協定締結

県内造船関連産業の振興に向けて連携



2024年7月 西海市と連携協定締結

西海市の地域活性化や地方創生の推進に協力

地域振興に向けて ～ 自治体との連携(2)



2025年7月 長崎市と連携協定締結

長崎市内の造船関連産業の振興
カーボンニュートラル社会の実現
地域コミュニティの活性化

西海市の定住促進(1)



西海市、大島造船所、十八親和銀行でつくる「西海市の地方創生を考える会」は9月29日、十八親和銀行本店で共同記者会見を開き、旧大島中学校跡地に飲食店や市の子ども支援施設などが入る複合施設を建設すると発表。
来年4月に着工予定。2027年春の開館を目指す。
コンセプトは「市民が気軽に集うことができ、楽しめる施設」

西海市の定住促進(2)

大島酒造



オリーブベイホテル



大島トマト



学習塾：青雲学舎



地域の雇用を創出。

また、メディアにも多く取り上げられ、
西海市の認知度向上にも貢献。

佐世保にある学習塾「智翔館」の協力のもと、2014年に大島町内に学習塾を開校。大島に住む小中学生が島内で学べる環境を整備。

地域への貢献～地域に密着した活動

地域住民を招待する命名式



地域の清掃活動



地元消防団への参加



地域への貢献 ～ 昨年度、小中学校20校530人が見学

小中学生の工場見学 (当社社内報より)



見学のようす



01 小中学生の工場見学

地域への貢献 ～ 昨年度、高校7校270人が見学

高校生の工場見学



教育機関との連携 ～ 技術の伝承・人材育成

造船関連技術の共同研究、人材育成を通じた造船業の地域への普及に向け、地域教育機関と連携を行っている。

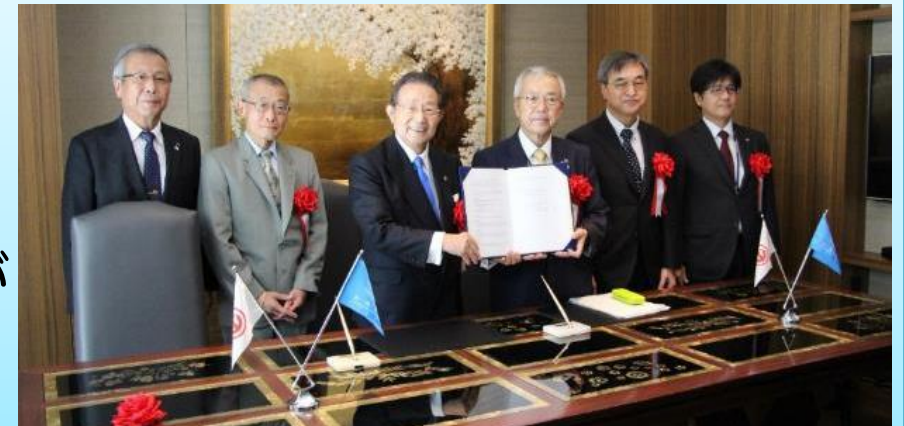


九州大学（45名在籍）

造船・船舶関連の研究を行う九州内唯一の国立大学。2003年7月に連携協定を締結し、大学院に寄附講座を開設中。共同研究も行っている。

長崎大学（41名在籍）

2018年10月に連携協定を締結。
同時に工学部大学院に寄附講座を開設。
現在は寄附講義に変更し、学部生向けに当社社員が講師として講義を実施（半期15コマ）。



地域教育機関との連携 ～造船関連技術の研究、人材育成

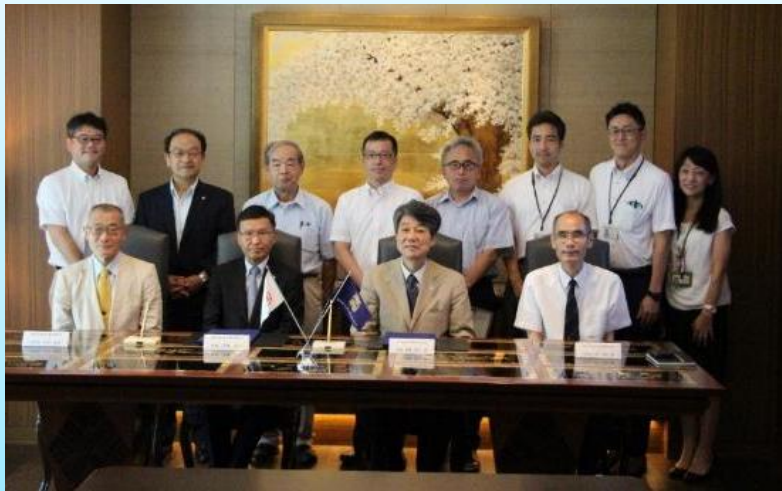
長崎工業高校（124名在籍）

造船関係の教育を行う県内唯一の高校。
学生向けに当社社員が講師として講義を実施中（年間28コマ）。



佐世保高専（13名在籍）

2019年8月に連携協定を締結。
共同研究や学生向けに当社社員が
講師として講義を実施中（年間5コマ）。



当社の外国人労働者の実態

			2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	5年平均
全国	技能実習	総人数	406,946	463,188	509,373	552,936		483,111
		失踪者数	7,167	9,006	9,753	6,510		8,109
		失踪率	1.8%	1.9%	1.9%	1.2%		1.7%
大島造船所	技能実習	総人数	23	8	0	43	46	24
		失踪者数	0	0	0	0	0	0
		失踪率	0.0%	0.0%	-	0.0%	0.0%	0.0%
	特定技能	総人数	5	5	51	147	166	75
		失踪者数	0	0	0	0	0	0
		失踪率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	総人数	28	13	51	190	212	99
		失踪者数	0	0	0	0	0	0
		失踪率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

外国人労働者の地域に対する奉仕活動





ご清聴ありがとうございました

